

ワンセグ高瀬の 番組チェック



文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

ライフワークとしてワンセグデータ放送を追い続ける一方、別モノとして距離を置いてきた12セグデータ放送。が、その最新動向にはなかなか目を見張るものがあった。特に当初からの課題とされてきた「通信回線接続と双方向」については、携帯電話を主な端末とするワンセグにはない、大きな意識変革が感じられた。というわけで今回は、ワンセグならぬ12セグの最新動向チェック、スタート。

「12セグデータ放送」最新事情

結線への切り札となるか 日テレ「コメント投稿サービス」

「テレビへの結線が放送サービスの在り方を変える」と評されたのも今は昔。近年はQRコードをはじめとするPC、ケータイへの委譲手段が浸透し、双方向サービス実施にはテレビ本体への回線接続必須という状況は薄れてきた。

一方、データ放送経路のオンデマンドサービス提供など新たなビジネスモデルへの期待が高まりつつあることに伴い、やはり「テレビへの結線は必要」との声も戻ってきている。その方針を具体的に示しているのが、日本テレビのコメント投稿系サービスだ。

番組へのコメントや応援メッセージなどを受け付け、それをデータ放送上に表示するという同サービス。年末・年始にかけて放送された日テレの大型番組（『ダウンタウンのガキの使い』『箱根駅伝』ほか）で採用され、それぞれ数万件レベルの実績を挙げたという。

担当者いわく「某動画+コメント投稿サイトのような」サービスとのことだ

が、あくまで放送局が提供するサービス。ポイントは各種コメントの放送適性をリアルタイムに見極めることができるか否か、ということになる。

実際、昨夏の衆院選特番において若干問題のあるコメントが掲載されてしまったことは有名な話。それでも「内容をあまり縛りすぎてしまっては参加する面白みが薄れてしまう。適正ラインの設定をどこに置くのか、また放送局側の編成権をどのように駆使するかがポイント」（担当者）というように、まだまだ改善の余地はありそうだ。

結線なしでもありでも楽しめる TBS『オールスター感謝祭』

年末のNHK『紅白歌合戦』と並ぶ大型視聴者参加型番組として知られるのがTBSの期首・期末特番『オールスター感謝祭』。何度かの試行錯誤を経て「全問視聴者参加」が実践され始めて数回が経過しており、現在では高い完成度を誇っている。

まず、クイズに参加するだけであれば通信接続は必要としない。視聴者個々

の成績は端末のRAM上に蓄積され、最終的には会場のタレント200人を含めた「?位/201人中」が表示される。つまり、接続なしの単体でも十分、参加感は味わえるのだ。

さらに通信接続を行うと、全国の参加者を含めた順位が表示されるようになる。中間審査および最終審査時の同時アクセスは50万件以上に上り、また2分弱で結果をリターンするために迅速な処理が必要とされるが、そこはトマジの高い技術力とノウハウできっちりカバーしているという。

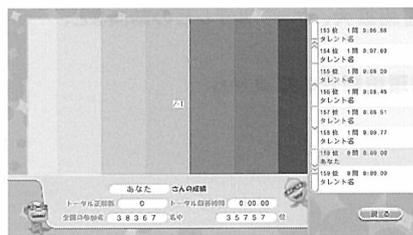
その他特記事項として、四択への参加に色ボタンのほか、リモコンのチャンネルボタンを利用できることが挙げられる。つまり連動データ放送発動中はNHK総合・教育、日テレへのチャンネル変更機能が奪われるということ。細かいことだが、日陰者扱いされがちなデータ放送としては思い切った機能と言える。

実際に参加してみると回答時間制限（10秒）の厳しさに泣くことが多く、色ボタンより直観的な操作が可能なチャンネルボタンの意義の大きさを理解できる。が、それでも時間内に正答を選ぶことは意外なほど難しく、ほとんどのクールが1～2問目で敗退。最終結果も201位/201人中に終わった（途中、心が折れたので全国結果は確認せず）。

改めてプレッシャーに対するタレントたちの偉大さを感じるとともに、日ごろから12セグデータ放送に慣れ親しんでおくことの重要性を感じさせられた。



日本テレビの技術展示会「デジテック2010」から



「オールスター感謝祭」の成績表示画面